

住民無視、無謀な京都スタジアム(仮称)工事請負契約の可決強行に強く抗議する（声明）

2017年12月19日

日本共産党府会議員団

本日12月19日、12月府議会最終本会議で山田知事が提案した京都スタジアム（仮称）工事請負契約を、自民、民進、公明、維新の与党4会派が賛成多数で可決強行した。また本議会に提出された267件の建設中止を求める請願が同様に否決された。

日本共産党京都府会議員団は、住民無視、無謀な京都スタジアム建設強行の暴挙に満身の怒りを込めて抗議するものである。

京都スタジアムの建設予定地は、亀岡駅北の洪水常襲地である。遊水機能を持った土地を盛土して大規模開発を行うことは、防災の専門家から洪水被害の拡大につながると警鐘が鳴らされるとともに、建設中止を求める1万2千人の署名が亀岡市に提出され、裁判も起こされている。

また建設予定地は、絶滅危惧種アユモドキの生息地である。世界自然保護基金など国内外の自然保護団体や有識者、広範な府民、亀岡市民から大規模開発によってアユモドキが絶滅しかねないと危惧する声が広がっている。

さらに、治水対策やアユモドキ保全、交通問題など多くの懸念が亀岡市民から出されているにも関わらず、住民説明会を一方向的に打ち切るなど建設ありきで強引に推し進めてきたことは重大である。

本来、スポーツ振興の責任を果たすべき京都府が、その公的責任を投げ捨て、スタジアムの管理運営を企業に丸投げし、「稼げる街づくり」の名のもとに周辺地域の大規模開発に24億円もの税金を投じて企業の利益追求を支援しようとしていることも問題である。

このような京都スタジアムの建設強行は、住民福祉向上の自治体本来の役割を放棄し、京都府政のあり方として将来に重大な禍根を残すものであり、断じて許されない。

日本共産党府会議員団は、来年1月にも予想される京都スタジアムの工事着工を許さないたたかいに全力尽くすとともに、来春4月の京都府知事選挙で、京都スタジアム建設中止の審判を下すために、広範な亀岡市民、府民のみなさんと力を合わせて奮闘する決意である。